

O-45 人工呼吸器を用いる際の安全対策 －ナースコール連携システムの有用性－ 第2報

筑波大学大学院人間総合科学研究科¹⁾、筑波大学附属病院麻酔科²⁾

清水 雄¹⁾、高橋 伸二¹⁾、渡邊 和宏²⁾、水谷 太郎¹⁾

第28回日本呼吸療法医学会学術総会において、人工呼吸器アラーム・ナースコール連携システムを紹介した。本システムは、人工呼吸器の警報装置が作動しているにもかかわらず警報音に気付かないという事態を防止する方法の一つとして有効と考えられた。現在ナースコール対応の出力を備えた人工呼吸器は少なくないが、実際に活用している施設は少ないと見受けられた。そこで、今回、我々は、アンケート調査を実施し、現状を把握することにより安全性向上に寄与したいと考えた。

【方 法】

日本呼吸療法医学会評議員76人の所属する76施設対象とし、全10問のアンケートを郵送、同封の返信用封筒にて回答を回収し解析した。

【結 果】

回答率は45% (34/76施設) で、施設名記載は求めなかったため一部不明であるが、回答施設の内訳は、大学病院50%、一般病院35.3%であった。ICU・HCU以外の一般病棟における人工呼吸器使用に関しては、34施設中31施設(91%)で使用されていた。使用中のナースコール製造会社は、ケアコム35.3%、アイホン17.6%、ナショナル14.7%、シスコール8.8%、シンセイ5.9%、手作り1件であった。

ナースコールと接続できる人工呼吸器機種の存在を知っていたのは34施設中23施設(67.6%)であった。その23施設におけるナースコールと接続可能な人工呼吸器の導入状況は以下のとおりであった。接続可能な人工呼吸器があることを把握56.5%、無いと把握21.7%、把握していない21.7%だった。また、これらナースコールと人工呼吸器が接続可能なことを知る23施設において、現在実際に接続使用しているのはわずか2施設だった。これは、23施設中では8.7%、全体では5.9%にあたる。現在使用していないが、過去に使用した経験があるのは、3施設13%であった。本システム未使用施設における今後の使用希望は全体で68%、システムの存在を知らなかった施設中でも55.6%あり、回答者全員が程度に差はあれ安全性が向上すると考えている。一方、導入を希望しない理由はコストが最多(37.5%)であった。

【結 語】

人工呼吸器を使用する際には細心の注意が必要であることは言うまでもなく、全例ICU、HCU環境での使用が理想であるが、現実には困難である。また、接続したから安全との過信が事故につながる可能性や、導入のコストなど克服すべき課題もある。しかし、人工呼吸中の安全性向上のため、今後の普及を期待したい。